

第2号様式

会 議 議 事 録

1 会議名	第1回持続可能な長岡水道のあり方に関する懇話会
2 開催日時	令和6年5月13日（月曜日）午後3時30分～午後5時
3 開催場所	米百俵プレイス ミライエ長岡西館5階スタジオA・B
4 出席者名	（有識者）鯉江座長、長谷川副座長、大竹委員、田中委員、 並木委員、平賀委員 （冒頭あいさつのみ）大滝副市長 （事務局）植木局長ほか関係職員
5 欠席者名	西片委員
6 議題	1 あいさつ 2 参加者紹介 3 議事 （1）懇話会開催趣旨・スケジュール （2）事業紹介 （3）水道経営の現状と課題 （4）次回以降の検討課題 4 その他
7 会議資料	別添のとおり
8 議事概要	別添のとおり

第1回持続可能な長岡水道のあり方に関する懇話会

議事概要

- ・はじめに、事務局から、当懇話会の開催趣旨とスケジュールの案が示され、続いて長岡の水道事業について、概要紹介があった。
- ・これを受け、委員から、今後議論を進めるにあたっては、水道事業と簡易水道事業のどちらについて議論しているのかを常に明確にしていきたいとの要望があり、事務局からは、特に断りのない時は水道事業を指しており、簡易水道事業に関わるものについては、十分注意しながら説明を行いたいとの回答があった。
- ・次に、事務局から、水道経営の現状と課題について、①施設・管路の整備、②施設・管路の維持管理、③サービスの向上、④マンパワーの確保、⑤収益減・コスト増への対応、⑥経営基盤強化をめぐる国の動きの6つの観点から説明があった後、委員との意見交換が行われた。
- ・「①施設・管路の整備」及び「②施設・管路の維持管理」について、今後、課題に対する対策を説明するにあたっては、管路の事故件数の推移など、市民から見て分かりやすい指標を用いるなどの工夫をした方がいいのではないかとの意見、また、これまで行ってきた経営努力や業務改善の取組に対する、水道局の分析、評価についても、市民にとって分かりやすいよう工夫していただきたいとの要望があり、事務局から、いただいた意見等を参考に、分かりやすいデータも用いながら説明を行っていききたいとの回答があった。
- ・「④マンパワーの確保」については、水道事業に限らず、様々な分野で課題となっているが、公営企業として職員の育成方法も含め、長期的な観点から考えていくことが大事との指摘があった。
- ・続いて、ベテラン職員の退職など現段階で把握できている課題については、先行きが見えているのであれば、今からでも対策がとれるのではないかとの意見があり、事務局から、ベテラン職員の減少に対しては、経験値や暗黙知をどうやって伝えていくか、様々な対策を組み合わせる中で検討していくとの回答があった。
- ・また、委員から、検針員の確保について、業務内容や募集の状況など情報発信の仕方に改善の余地があるのではないかとの助言があった。

- ・「⑤収益減・コスト増への対応」に係る課題について、今後、対策を検討するにあたっては、これまでできていなかったこととその理由を提示いただきたいとの要望があり、これに対し事務局からは、今後の資料作りの中で反映するようにするとともに、できなかった理由や事情をできるだけ市民に分かりやすく示すよう努力したいとの回答があった。
 - ・また、委員から、ずっと料金改定を行わずに水道事業の経営を行っているが、現在の財務状況を踏まえると厳しい状況で、今後は更に厳しくなっていくのではないかとの意見があり、事務局からは、料金改定については、今後の事業計画とそれに応じた中長期的な収支の見通しを立てていく中で判断していくことになると考えている。本懇話会では次の100年を見据えた中で、これからの水道事業の経営について多角的にご意見をいただき、事業計画に活かしていきたいとの回答があった。
 - ・このことに対し、委員から、ライフスタイルは常に変わっていくが、その中においても水道事業として、安定的に水を供給し続けていくために、長期的な観点から議論することが重要との認識が示された。
-
- ・「⑥経営基盤強化をめぐる国の動き」に関連し、能登半島地震では、水道本管の修理が終わっても、宅地内の給水管が壊れているため蛇口から水が出ないというところがかなりあるというが、その問題の一つが水道工事を行う業者が不足していることにある。災害への備えのため、地元の小規模な水道工事業者も含めて、今後の対策や連携について議論していく必要があるのではないかとの意見があった。
 - ・また、「新潟県広域化推進プラン」に周辺市との施設連携について記載されているが、市の経営戦略と合致していない。このことに対する考え方はどうかとの質問があった。これに対し事務局より、市の経営戦略は、県の広域化連携プラン策定前のものであるため、周辺市との施設連携については反映されていない。広域連携については、コスト面などのハードルはあるが、事業の経営を取り巻く環境は同じなので、どこかのタイミングで検討を進めていくことはあり得るのではないかとの回答があった。
-
- ・続いて、事務局から、次回以降の検討課題について説明があった。
 - ・これに対し、委員から以下の3点について意見があった。
 - ・挙げられた課題は全国の水道事業に共通のものだが、これらとは違う長岡市の特徴があれば、もう少し踏み込んで確認した方がいいのではないか。
 - ・今後の水道事業経営にあたっては、水道料金ありきではなく、まずは事業計画がどうあるべきかという議論が必要ではないか。
 - ・業務指標を用いた経営分析の結果を示すなど、市民に水道事業の状況を分かりやすく伝えるための工夫が必要ではないか。

- これらに対し、事務局からは、長岡市は人口減少の悩みを抱えている地方都市の平均的な姿であるとの認識を示したうえで、課題は全国の地方都市共通のものであり、国が示している要請に基づくとともに、他団体の状況を注視し、懇話会での議論からもヒントをいただきながら、事業計画をしっかりと考えていきたいので、様々な観点から意見をいただきたい。また、業務指標について、今後の議論の中で紹介し、長岡市の経営状況を分かりやすく説明してまいりたいとの回答があった。
- 最後に委員から、将来の水道事業が安全かどうかを市民に判断いただけるよう、市民に向けて提案書を書くような気持ちで、今後、様々な資料を整理してもらいたいと要望があった。
- 次回は、7月23日（火）の午後に、施設の視察を行うことが確認された。